

## 保護者向けいじめ対策広報紙

# よりよいかかわりを求めて

一宮市いじめ対策推進委員会  
平成25年 夏号

昨年度から、保護者向けにいじめ対策広報紙「よりよいかかわりを求めて」を発刊しています。これは、一宮市や各学校で取り組んでいるいじめ対策について、保護者の方に知っていただき、力を合わせていじめゼロをめざしていくことをねらいとしているものです。

## いじめ対策協議会を開催し、幅広いご意見をいただきました

6月19日(水)木曾川庁舎で、学識経験者、一宮児童相談センター長、一宮保健所健康支援課長、一宮市スクールカウンセラー、青少年育成課長、青少年センターカウンセラー、教育委員会、保護者、教員の代表が集まり、一宮市いじめ対策協議会を開催しました。平成25年度の一宮市におけるいじめ対策についての方針が提案され、様々な立場の方から意見をいただきました。

一宮市では、この協議会を通していただいた意見を基に、一宮市いじめ対策推進委員会が、いじめの早期発見、早期解決、いじめ防止に向け、市内小中学校に働きかけを行っています。今年度は、特に次のような活動を重点的に取り組んでいきます。



- 経験の浅い教員の対応力向上に重点をおいた研修会を開催します。
- 各校の中心となる「いじめ等対策主任」の推進力向上をめざした研修を行います。
- いじめについての実態調査を行い、対策に役立てます。
- 教員や家庭向けのいじめ対策広報紙を発行し、いじめ防止の啓発に努めます。
- 子どもたちがよりよい人間関係をつくる力を高めます。
- 子どもたち自身が主体的にいじめ防止に取り組む活動を推進します。

自分がいじめられていることを知ると親が悲しい思いをするだろうと思って、子どもたちは家族に相談しないことがあります。しかし、つらい気持ちは子どもたちの様々なサインとして表れてきます。

## 子どもたちのサイン

- 食欲がなくなる。
- 学校のことや友だちのことを話さなくなる。
- 衣服がよごれていたり、けがをして帰ったりすることが多くなる。
- 持ち物がいたんだり、落書きがあったりする。
- いらいらしたり、おどおどしたり、落ち着きがなくなる。
- 弟や妹、ペットなどをいじめるようになる。
- 学校から帰って友達と遊ぶことが少なくなる。
- 家の金銭を持ち出したり、買い与えたものがなくなったりする。
- 登校時間になると、頭痛や腹痛を訴え、登校をしづる。

**サインに気づいたら、すぐに学校へお知らせください。**





## 子どもからのサイン

保健室から

「頭が痛い」と言って来室した1年生のAくん。体の状態についての問診等の後、「何か気になることはないかな?」と問いかけました。一旦は「ない」と答えたものの、生活の様子を一緒に振り返るうちに、朝、友だちとけんかをした話をしてくれました。しばらく話をしたところ、「大丈夫、いつもの方法で仲直りできるから」と、自分から教室へ戻っていきました。

子どもたちの多くは、体調不良やけがなど体の症状を訴えて保健室にやってきます。でも、体と同時に心のケアも欠かせません。「何かトラブルを抱えていないか」、「心配事はないか」、「それを言うこともできずにいるか」という視点を常に忘れずに対応するようにしています。

子どもたちの発するSOSのサインは本当にさまざまですが、保健室に来たということが何よりのサイン。今日も、一人一人の生徒とじっくり向き合っていきたいと思えます。



## リラックスできる場所としての保健室

本校の保健室では、リラックス効果のある音楽をいつも流しています。

● 心やからだが疲れた子が保健室に来て音楽を聴くことで、気分転換して「またがんばろう」と思えるような場所になればいいなと思っています。

● 体重測定時にも、私語が減り、落ち着いた雰囲気ですぐ1時間過ごせるようになってきています。

● 以前、体調不良を訴えて来室した3年生の子が「教室に行きたくない。保健室の居心地がいいから、ずっと保健室にいたい。」と話してきました。「保健室は、ずっといる場所ではなくて、またがんばろうっていう気持ちになるために、一旦お休みする場所なんだよ。疲れたら、また休みに来ていいからね。」と声をかけました。子どもたちと、落ち着いた雰囲気の中でいろいろ話をするうちに、今自分が困っていること、悩んでいることなどが聞こえてきます。友達付き合いでの悩み、勉強での困り事、家庭での心配事など、子どもたちのSOSのサインを的確に受け止め、解決の一助になるような保健室にしたいと思えます。